

大規模カルテデータを用いたプライマリ・ケアの質の決定要因の分析

本研究室では、「大規模カルテデータを用いたプライマリ・ケアの質の決定要因の分析」を行っています。この研究は、全国約 4000 の診療所の電子カルテデータ結合レセプトデータを用いて、プライマリ・ケアの質に寄与する要因を調べることを目的とします。

【研究課題】

大規模カルテデータを用いたプライマリ・ケアの質の決定要因の分析（審査番号 2122）

【研究機関名及び本学の研究責任者氏名】

研究機関：筑波大学医学医療系 宮脇研究室

研究責任者： 宮脇 敦士（准教授）

担当業務：データ分析等

【研究期間】

2025年5月21日 ～ 2028年3月31日

【対象となる方】

2016 年 1 月から 2025 年 3 月までの期間に JAMDAS（エムスリー社の医療データベース）対象診療所を受診した方（延約 3000 万人）。

【研究の背景・目的】

我が国におけるプライマリケアの重要性は益々増加しているにも関わらず、プライマリケアの質、特に患者アウトカムを規定する要因について大規模データを用いた分析は限られています。我が国のプライマリケアの実態の大規模な把握にはこれまで、医療保険請求データが用いられてきましたが、これらは患者の臨床情報という点では限られており、例えば、受診時の血液検査やバイタルデータの情報は不十分なことが多いです。このギャップを乗り越えるため、本研究プロジェクトでは、より詳細な患者情報を得ることのできるカルテデータを用いることで、薬剤や診療行為がどのような患者に提供され、アウトカムにつながっているか、より深い理解をすることを目的とします。

【研究の方法】

本研究は株式会社エムスリーが研究用に提供している「JAMDAS データベース」を用いた観察研究です。本データベースは、エムスリー株式会社が同意を得た診療所から収集・構築したリアルワールド・医療データベースです。

本研究では、JAMDAS データベースから、患者レベルの情報（性別・生年月・来院日・傷病名・薬剤名・処方量・処方日数・診療行為・バイタル（体温・血圧・脈拍）・検査結果、等）や医療機関レベルの情報（病床数・都道府県・診療科、等）を用います。ガイドラインに準じた治療の実施率・不適切処方の頻度・血圧や HbA1c などの記録値で定義される患者アウトカムのような、プライマリケアの質について記述を行います。またそれらと関連する患者・医療機関レベルの因子について回帰分析などを用いて分析します。

JAMDAS データベースのもととなる診療所のデータは、各診療所内部で匿名加工されており、エムスリーにてデータクリーニングが行われ、その後、本研究室に提供されます。使用するデータは匿名化処理がされており、本学へ個人情報提供されることはなく、個人情報を扱うことはいたしません。したがって対象者の方の個人情報が漏れることはありません。研究結果は個人が特定できない形式にした上で、学会等で発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと研究終了後5年間保存されます。ご不明な点があれば、下記までお尋ねください。

[利益相反について]

この研究に関する費用は、宮脇研究室の運営費および文部科学省 科学研究費助成事業（24K02701）から支出されます。しかし、研究の実施や報告の際に、これらの費用等提供元の都合の良い結果となるよう意図的に導いたりすることはありません。

[問い合わせ先]

筑波大学医学医療系

社会医学（公共健康政策） 准教授 宮脇 敦士（研究責任者）

住所: 茨城県つくば市天王台 1-1-1 Mail: amiyawaki @ md.tsukuba.ac.jp